

## 論文番号 62

担当

滋賀医科大学 福祉保健医学講座

題名 (原題/訳)

Exploring the relation of alcohol consumption to risk of breast cancer

アルコール消費が乳がん発症リスクに与える影響の検討

執筆者

Ellison RC, Zhang Y, McLennan CE, Rothman KJ

掲載誌 (番号又は発行年月日)

American Journal of Epidemiology, 2001, 154 (8) : 740-747

キーワード

飲酒、乳房新生物、メタアナリシス

要旨

女性のアルコール消費と乳がん発症危険性に関する、古くからの問題がある。そこで、著者らは1999年にメタアナリシスの手法によって、飲酒と乳がん発症の量反応関係を推計し、また、種々の研究によってそのリスクの大きさが異なるか否かを検討した。

アルコール消費と乳がん発症リスクは単純な量反応関係があったが、その関連の強さは小さかった。非飲酒者に比べて、1日12g(約一杯の飲酒量)のアルコール消費者の比較危険度は1.10であった。このリスクの程度は、コホート研究や地域住民を対照群とした症例対照研究では、病院患者を対照とした症例対照研究よりも7%高かった。1990年以前に公表された研究は、それ以降の研究よりも3%高かった。1990年以降公表されたアメリカの5つのコホート研究では、12gのアルコール消費により乳がん発症リスクは、非飲酒者に比して1.06倍であった。追跡期間が10年未満のものは、それ以上の長期のコホート研究よりも、11%高いリスクを示した。閉経の有無やアルコール飲料の相違による危険性の相違はなかった。